

リハビリテーション

M-04-13-L

オーガナイザー

リハビリテーション科 幸田 剣

I. 授業の目的

リハビリテーション医学が、「機能を回復する・障害を克服する・活動を育む医学」であることを理解する。リハビリテーション診療を構成する「リハビリテーション診断」と「リハビリテーション治療」の知識を習得する。具体的には、障がい者特有の病態生理、起立、運動負荷を与えた時の生理学的応答、安静臥床の弊害などを学習する。リハビリテーション治療特有の理学・作業・言語聴覚療法、装具療法、多職種とのチーム医療などを理解する。

II. 到達目標

(1) リハビリテーション医学総論

総論1. リハビリテーション医学・医療の歴史と概念

- リハビリテーション医学の歴史を説明できる。
- 機能を回復する・障害を克服する・活動を育む医学を説明できる。
- 機能障害(impairment)の概念を説明できる。
- 能力障害(disability)の概念を説明できる。
- 社会的不利(handicap)の概念を説明できる。
- 複合障害の概念を説明できる。
- リハビリテーション医療におけるチーム医療を説明できる。
- 急性期、回復期および生活期リハビリテーション医療の意義を説明できる。

総論2. リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法

- リハビリテーション医療に関する基本的な診断学を説明できる。
- 障害構造モデルを説明できる。
- 活動の能力を最大限に引き出す方法を説明できる。
- 理学療法の基礎を説明できる。
- 作業療法の基礎を説明できる。
- 言語療法の基礎を説明できる。
- 質の高い家庭での活動や社会参加につなげていく重要性を説明できる。

総論3. リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床

- リハビリテーション基礎医学として必要な解剖学を説明できる。
- リハビリテーション基礎医学として必要な生理学を説明できる。
- 障がい者特有の病態生理を説明できる。
- 起立、運動負荷を与えた時の生理学的応答を説明できる。
- 温熱を与えた時の生理学的応答を説明できる。

安静臥床の弊害を説明できる。

機能訓練を説明できる。

運動療法を説明できる。

物理療法を説明できる。

総論 4. 義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ

義肢装具学を説明できる。

下肢装具の適応・効果を説明できる。

義手を説明できる。

義足を説明できる。

リハビリテーション工学を説明できる。

社会的資源の説明ができる。

実際の地域医療におけるリハビリテーション医学の貢献と医師の役割を説明できる。

スポーツ医学について説明できる。

障害者スポーツの重要性を説明できる。

(2) リハビリテーション医学各論

各論 1 運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断

骨関節疾患に随伴する障害（筋力低下、疼痛、可動域制限）について説明できる。

運動器疾患のリハビリテーション治療について説明できる。

運動器疾患の装具療法について説明できる。

変形性関節症のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

脊椎脊髄疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

関節リウマチのリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

四肢切断に関わる評価、診断、治療について説明できる。

各論 2 脳血管障害・頭部外傷・高次脳機能障害

脳疾患のリハビリテーション治療について説明できる。

脳疾患に随伴する障害を示すことができる。

運動麻痺に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

運動失調に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

高次脳機能障害に対する診断、機能障害、能力障害について説明できる。

脳血管障害のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

頭部外傷のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

脳性麻痺のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

各論 3 脊髄損傷、神経筋疾患、小児

脊髄損傷の病態生理を示すことができる。

脊髄損傷に随伴する運動麻痺・感覚障害について説明できる。

脊髄損傷に随伴する自律神経障害について説明できる。

脊髄損傷のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

神経筋疾患の病態生理を示すことができる。

神経筋疾患に随伴する障害（麻痺、感覚障害、自律神経障害）について説明できる。

神経筋疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

小児麻痺に随伴する障害とリハビリテーション治療について説明できる。

各論4 循環器・呼吸器疾患、腎、内分泌代謝疾患

循環生理と運動時の循環調節について説明できる。

循環器疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

循環器疾患に対する運動療法の効果について説明できる。

循環器疾患の運動処方を示すことができる。

呼吸生理と呼吸調節について説明できる。

呼吸器疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

慢性閉塞性肺疾患の運動療法について説明できる。

腎疾患のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

糖尿病のリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

糖尿病の運動療法について説明できる。

各論5 がん、熱傷、嚥下、栄養管理、多職種連携

がんのリハビリテーション医療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション治療を説明することができる。

悪液質に対するリハビリテーション治療を説明することができる。

嚥下に関する解剖・生理学を説明することができる。

嚥下障害に対するリハビリテーション治療に関わる評価、診断、治療について説明できる。

熱傷のリハビリテーション治療について理解することができる。

運動療法と栄養の関係について理解することができる。

チーム医療の本質を理解し、多職種連携について説明できる。

III. 講義項目と担当者

(1) リハビリテーション医学総論

総論1. リハビリテーション医学・医療の歴史と概念

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座学長特命教授 久保 俊一

総論2. リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 講師 石田 和也

総論3. リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床

獨協医科大学埼玉医療センターリハビリテーション科 主任教授 上條 義一郎

総論4. 義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ

愛知医科大学リハビリテーション科教授 尾川 貴洋

(2) リハビリテーション医学各論

疾患各論1 運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断

和歌山ろうさい病院整形外科

峠 康

疾患各論 2 脳血管障害・頭部外傷・高次脳機能障害

広島大学病院リハビリテーション科教授

三上 幸夫

疾患各論 3 脊髄損傷、神経筋疾患、小児

那智勝浦町立温泉病院リハビリテーション科部長

坂野 元彦

疾患各論 4 循環器・呼吸器疾患、腎、内分泌代謝疾患

和歌山県立医科大学みらい医療推進センター講師

西郊 靖子

疾患各論 5 がん、熱傷、嚥下、栄養管理、多職種連携

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座准教授 幸田 剣

IV. 評価方法

期末試験の成績は全体的な基準により評価する。なお出席が2/3に満たない場合は、不合格とする。

講義では、積極的な発言に期待する。

V. 推薦テキスト及び参考書

- (1) 日本リハビリテーション医学会編集 リハビリテーション医療・医学コアテキスト 3,888円
- (2) リハビリテーション基礎医学 1994 (医学書院) 11,000円
- (3) イラストと写真でわかる実践装具療法 2015 (金芳堂) 4,600円

VI. オフィスアワー

リハビリテーション科 火曜日 17:00~18:00

【連絡方法】 km0811km★wakayama-med.ac.jp (担当：村井昂太)

【実施場所】 研究棟3階 リハビリテーション科医局

	1 基礎的資質				2 医師としての基本的資質				3 コミュニケーション能力				4 医学的知識								5 医学の実践								6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献												
	問題解決型能力	情報技術	語学能力	社会人としての一般教養	倫理観	チーム医療	自己啓発	人間関係の構築	他者への思いやり	情報交換	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	人体の発達、成長、加齢、死	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	図表の利用	生物統計、疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	フレセンテーション技能	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動	
卒業時コンピテンシ	F	D	F	F	E	B	E	E	F	E	E	B	C	E	E	C	E	E	E	D	E	C	C	E	F	E	F	E	D	F	E	E	E	F	F	C	D	D	D	F	F	F	F	F	F

講義日程表

リハビリテーション

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R6.8.19	(月)	2	総論1:リハビリテーション医学・医療の歴史と概念	リハビリテーション科	久保 俊一
2	R6.8.19	(月)	4	疾患各論5:がん、熱傷、嚥下、栄養管理、多職種連携	リハビリテーション科	三上 幸夫
3	R6.8.20	(火)	1	総論3:リハビリテーション基礎医学 起立、運動、温熱、安静臥床	リハビリテーション科	上條 義一郎
4	R6.8.20	(火)	2	総論4:義肢装具療法、リハビリテーション工学、社会的資源、スポーツ	リハビリテーション科	尾川 貴洋
5	R6.8.20	(火)	3	疾患各論4:循環器・呼吸器疾患、腎、内分泌代謝疾患	リハビリテーション科	梅本 安則
6	R6.8.23	(金)	1	総論2:リハビリテーション診断・治療・理学・作業・言語聴覚療法	リハビリテーション科	石田 和也
7	R6.8.23	(金)	2	疾患各論3:脊髄損傷、神経筋疾患、小児	リハビリテーション科	坂野 元彦
8	R6.8.23	(金)	4	疾患各論1:運動器、骨粗鬆症、関節リウマチ、切断	リハビリテーション科	峠 康
9	R6.8.26	(月)	4	疾患各論2:脳血管障害・頭部外傷・高次脳機能	リハビリテーション科	幸田 剣
10	R6.9.2	(月)	4,5	本試験		